

令和2年12月19日(土)

日本音楽高等学校
校長 菊本 和仁
保健室 児島 智美



数日で新年を迎えます。新型コロナウイルス感染症の感染対策を省みつつ、未知なる病気です。感染者数に憂うのではなく、誰もが感染しやすい、また感染させてしまいます。感染したときは、自分を責めるのではなく、保健所の指導を受けて療養し後遺症で苦しむことの無いように過ごしましょう。おうちの人や身近な方が感染したときは、静かに自宅で一定期間を過ごすこととなります。「出席停止」は、本人の意思ではどうにもできない感染症と向き合っている時間です。体力を戻しいつもの生活に戻れるよう向き合っている時間です。

R2. 8. 20 保健だより 抜粋

＜濃厚接触者になる可能性は

いつでもあります＞

- ☆ 同居する方が濃厚接触者となりPCR検査を受けることになった
- ☆ 体調不良で医師に相談したところPCR検査を行うことになった
- ☆ 友人などの感染で保健所から連絡がきた等々

濃厚接触者になった(生徒、ご家族、同居するかた)場合は、必ず学校または担任へご連絡ください。状況に応じてお伝えすることがありますので、今後ともご理解とご協力をお願いします。

＜感染した場合＞

- ☆ PCR検査の結果 陽性 と分かったら直ぐに学校または担任へご連絡をお願いします。
- ☆ 行政機関などと連携し対応をします。その上で学校からもご連絡をします。
- ☆ LINE・ツイッター・インスタグラムなどのSNS 記載はしないこと。憶測での会話をしないようにしましょう。

このウイルスの感染を100%予防することは到底不可能ですから、感染したことで自分を責めないようにしましょう。

PCR検査の感度は70%以下、つまり30%以上の見逃しがあることです。PCR陰性が感染していないという証明には到底ならないということです。陰性の結果で「私は大丈夫」などと決して思わないでください。現状、世の中のすべての人が自身が感染している可能性があると思って常に他者へうつさないような配慮が必要で、これは今後ずっと続くことです。マスク、手指衛生、3蜜回避など引き続き留意してください。

木内茂之 医師

今、あなたも私も感染していないという保証はないのです。身に覚えなく感染して無症状でいる人がほとんどですから。いつでも自身が感染者であり得ると思って行動してください。

木内茂之 医師

<教室換気を確実に行う方法>

- ① 授業開始の号令時に窓を全開にする。(強風の場合は除く)
*先生方は教室に着いたら、窓を開けるよう生徒へ指示をしてください。
- ② 出席確認(約1分程度経過後)が終わってからは、教室2か所を5cm程度開ける。いつも同じ窓ではないようにしてください。
- ③ 気温が下がり窓を開けていると教室内の気温が上がらず、エアコン設定温度をあげすぎると、霜取り機能が作動し暖房が効かなくなります。設定温度の調節をお願いします。
- ④ 教室移動の際は、窓の施錠確認をお願いします。



Q新型コロナウイルス感染症に対するワクチンは実用化されているのですか。

◎新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの開発状況について

現在、新型コロナウイルス感染症のワクチンについては、早期の実用化を目指し、国内・海外で多数の研究開発が精力的に行われています。通常より早いペースで開発が進められており、既に、臨床試験が進められています。

◎ワクチンの有効性について

一般的に、ワクチンには感染症の発症や重症化を予防する効果があります。新型コロナウイルス感染症のワクチンは開発中の段階であり、有効性や安全性に関する臨床試験の結果の詳細については、今後、更なる情報が明らかになるのを待つ必要があります。
 ※これまで、ファイザー社、モデルナ社、アストラゼネカ社は、第3相試験で、開発中のワクチンを投与した人の方が、投与していない人よりも、新型コロナウイルス感染症に発症した人が少なかったとの中間結果が得られたと発表しています。

◎ワクチンの安全性について

一般的にワクチン接種には、副反応による健康被害が極めて稀ではあるものの、不可避免的に発生します。

現在、開発中の新型コロナウイルス感染症のワクチンの副反応については臨床試験等でどのようなものが起こりうるか確認されているところです。

日本への供給を計画している海外のワクチン※では、ワクチン接種後に、ワクチン接種と因果関係がないものも含めて、接種部位の痛みや、頭痛・倦怠感・筋肉痛等の有害事象がみられたことが報告されています。

※ファイザー社、アストラゼネカ社、モデルナ社、ノババックス社が開発中のワクチン
 【参考資料】 厚生労働省 HP 新型コロナウイルス感染症のいまについての10の知識

*11/27 掲載 より抜粋



感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に数居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の流れや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



冬期休業期間は、「クリスマスパーティー」「お正月パーティー」と年中行事の季節です。
飲食を伴うパーティーは【感染リスクがかなり高い】ことを認識しましょう。

参加前に自分の体調確認（検温など）をする ⇒ 手の消毒 ⇒ 会場の換気
⇒ 食事をする（共有を減らす） ⇒ マスクをする ⇒ 会話をする

この流れを忘れないでください。

『健康観察（起床時の検温）』は、冬期休業中も継続です。

3学期始業式<1月8日>に特Ⅱ教室で 消毒・検温をします。
健康観察票を提出してください。

